

国語

(1) 国語

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養ったり、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合うなど、言語能力の育成を図るための工夫</p> <p>(3) 児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する学習活動の充実を図るための工夫</p> <p>(4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めるための工夫</p> <p>(5) 調べたことを話したり、聞いたり、また行事の案内やお礼の文章を書くなどの体験活動を通じ、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的な学習を実施するための工夫</p> <p>(6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫</p> <p>(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、自発的な学習活動や読書活動の充実を図ることや、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動の充実を図るための工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	新しい国語	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 内容・系統については、学習指導要領の目標と内容をもれなく扱うとともに、単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として明確化し、重点的な学習によって着実に身につくよう工夫されている。
- 各領域の単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の課題解決的な3ステップで組織するとともに、各学年冒頭に「国語の学習の進め方」のページを設けて、課題解決的な学習を通して資質・能力が育成されるよう工夫されている。
- 学習の基盤として習得すべき「知識・技能」を、「おさえる」欄において随所に明示している。〔例〕3年上P45「だん落」、4年下P27「声の表情」等
- 学年段階に応じたさまざまな観点から言葉を集める教材「ことばあつめ」を設け、文中で使う学習を通じて、言葉の特徴や使い方についての理解を深めながら語彙を広げるよう工夫されている。
- 各単元の学習内容に関わる話型や文型、使えるようにしたい言葉を、単元末の「言葉」欄で取り上げ、学習や実生活の中で使える語彙力が育つよう工夫されている。
〔例〕1年下P111、2年上P47等
- 各単元の学習において、情報を整理したり関連づけたりする思考操作をメモやノート、思考ツールで可視化して、目的や課題に応じて情報を扱う力が身につくよう工夫されている。
- 思考力・判断力・表現力等の各領域の指導事項について、もれなく、かつバランスよく育成できるよう、領域ごとに適切な系統を設け、全学年を通じ系統的に取り扱われている。また、指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や意図、条件に沿った課題解決的な学習を通じて、必要な思考力、判断力、表現力等が身につくよう工夫されている。
- インターネット上の投稿を読み比べ、議論の参加の仕方を考えたり、プレゼンテーション資料制作でパソコン等を使って作業したりするなど、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。
〔例〕6年P74「インターネットの議論を考えよう」、6年P140「町の幸福論」
- 第2学年以上の各巻の巻頭に「国語学習の進め方」「〇年生で学習する言葉の力」を設け、年間を通じて「何を、どのように学ぶか」が見通せるようになっている。また、自らのめあてを明らかにする場面、学習を振り返って、めあてを新たに設定する場面が設けられている。学年末には、年間の学習を振り返る場面を設け、児童が自らの成長を実感し、さらなる学習への意欲を高めるよう工夫されている。
- 主体的に学習を進めることができるように、単元の問いを解決するための言語活動とともに、「学習の見通し」を示し、学習過程がわかりやすくなっている。
- 学習過程の中で特に重点となる部分には、「言葉の力」の問いを新設し、言葉による見方・考え方を働かせて思考・判断・表現することを促し、学びの深まりを生み出す工夫がされている。
- 学習活動の各所で、児童が考えを伝え合う場面を丁寧に描写し、それぞれの考えを広げ深める対話的な学びの大切さが伝えられている。
- 単元の学習を通して、できるようになったことや頑張ったことを振り返ることができるよう、振り返りの観点（「ふり返る」）と「言葉の力」が提示されている。

- 児童の家庭での生活体験や興味・関心をもとに書くことに親しみ、書く楽しさを味わえるよう工夫されている。
〔例〕 1年下P62「おもい出してかこう」、2年下P106「この人をしょうかいします」
- 生まれ育った土地に目を向け、郷土への誇りや愛する心を育てられるようにそれぞれの土地に関するさまざまな話題・題材を取り上げている。
〔例〕 4年下P54「『ふるさとの食』を伝えよう」、6年P140「町の幸福論」
- 児童の関心や発達の段階に合わせて適切な教材や題材を取り上げ、多様な表現を楽しむことができるよう工夫されている。
〔例〕 1年上P22「あいうえおのことばをあつめよう」、
3年上P148「想ぞうを広げて物語を書こう」
- 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するとともに、現代的な教育課題への対応ができる資質・能力を育むよう工夫されている。
〔例〕 1年下P30「なにに 見えるかな」、6年P52「防災ポスターを作ろう」等

2 使用上の便宜

- 児童や地域・学校の実体に応じた指導計画の作成に対応できるよう、内容や構成に配慮がなされている。
- 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせたものが取り上げられている。また、各学年の配当時数に応じた単元・教材数、分量であり、領域ごとのバランスも考えられている。
- 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等が、バランスよく一体的に育成されるよう、内容・系統及び配列が工夫されている。
- 4月を学習の基盤づくりの期間とし、学習の基礎となる「対話」「情報の扱い方」「音読」「ノート作り」「図書館利用」についての単元・小単元を位置づけて、学んだことが年間の学習で活用できるよう工夫されている。
- 的確・簡潔で、学年段階に応じてわかりやすい表現を用いている。また、表記や用語が統一されている。
- 手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠した字体を使用し、文字の指導がしやすいよう配慮されている。
- 各巻末の付録は、各単元の学習の補助や各巻を通じた学習を振り返り、学んだことの活用及び発展に資する教材や資料をまとめ、多様な便宜に応えられるように編集されている。
- 仮名文字の習得度合いに応じて活用できるよう、第1学年の上下巻の付録に全ての平仮名・片仮名を一覧できる表が収載されている。
- 各巻の巻末に設けた「言葉の広場」では、「ことばあつめ」をきっかけにさらに豊かな語彙を身につけるよう工夫されている。〔例〕 5年P212、6年P268等
- 特別支援教育の観点から、文字の習得においてつまずきやすい特殊音節や助詞について、指導できるページが設けられている。
- 印刷は鮮明で、シンプルなレイアウト・配色であり、大事な情報に着目しやすく、児童が見やすいよう工夫されている。
- 物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	みんなと学ぶ 小学校 国語	11 学 図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 国語の特質を理解し適切に使うことができるよう、身の回りと言葉とのつながりを意識した教材によって、言語生活を豊かにしていけるよう配慮されている。
- 育成したい思考力・判断力・表現力等を総合的に考え、対話の中で伝え合う力が着実に身につけられるようにするとともに、系統的・重点的に学習を組み立てることで、思考力や想像力が養われるよう工夫されている。
- 言葉を使うよさを実感し、論理的な側面、感性・情緒の側面、コミュニケーションの側面などから正誤・適否などの言語感覚を養い、国語の大切さを自覚できるよう工夫されている。
- 育成したい資質・能力を総合的に捉え、領域でつきたい力を相互に関連させながら学習を進め、系統的・段階的に言語能力が積み上がっていくよう配慮されている。
- 上巻巻頭の「見つける・見つめる」による語彙集め（第3学年以上）、「読むこと」で辞書を引いて調べる言葉を示した巻末の「言葉の部屋」など、言葉への意識を高め、実生活で使える語彙力を育てることができるよう工夫されている。
- 語句や漢字、言葉の意味については「言葉のいずみ」、語法や文法、日本語の使い方については「言葉のきまり」として取り立てて教材化されている。
- 児童にとって身近な日常生活の場面や、知的好奇心をくすぐる題材を導入とし、発見や気づきを促しながら学びを進め、自身の言語生活をふり返るとともに、学んだことを日常生活で活用できるよう工夫されている。
- 第3学年以上で、論理的思考力を育てるための教材を設定し、情報と情報との関係や情報の整理の仕方について、演習を通して体験的に理解し、他領域や他教科で使える力となるよう工夫されている。また、さまざまな思考ツールによる表し方を示し、情報を視覚的に捉えて整理する力が育つよう配慮されている。
〔例〕3年上P62「いろいろな見方で分類しよう」等
- 学習の中で、「考えの形成」に該当する活動を組み込むとともに、「考えの形成」が特に重視される教材を設定することで、児童が文章を読んだうえで自分の考えをもち、考えたことを表現する場を確保するよう配慮されている。
〔例〕5年下P20「どう考える？ この投書」、6年下P9「「本物の森」で未来を守る」等
- 「話すこと・聞くこと」では、児童の興味や発達段階のほか、学習内容にも配慮され、取り組みやすい題材を教材化することで、積極的な活動を促進し、伝え合う喜びを味わえるよう工夫されている。〔例〕2年上P28「はじめたよ、こんなこと」等
- 「書くこと」では、説明的な文章・文学的な文章・実用的な文章にバランスよく触れ、形式を学ぶとともに目的や意図、相手に応じた文章を書く場を設定するよう配慮されている。
〔例〕1年下P12「のりものしらべをしよう」、6年下P86「日本の魅力、再発見」等
- 「読むこと」では、読むための技能を段階的に積み上げることができるよう、教材の特性やねらいに応じた言語活動を設定し、思考力、判断力、表現力、批評力などの読みの力を養うことができるよう配慮されている。〔例〕3年上P94「あらしの夜に」等
- インターネット上の情報の取り扱い方を考えさせたり、興味をもった新聞記事についてインターネットを使って調べたりするなど、情報活用能力の育成に向けた工夫がみられる。
- 児童自らが見通しや目的意識をもって学習に取り組めるよう、振り返りの観点を示し、次の学びにつなげることができるよう工夫されている。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では、活動の概要を単元の冒頭に一覧で提示し、学びの見通しをもてるよう配慮されている。
- 家庭でも文章を読み、読書の日常化を図るため、幅広い題材の読み物教材を掲載し、興味をもって読み進めることができるよう工夫されている。〔例〕「読書のへや」各学年上下巻
- 児童が、地域の人的・物的資源を活用し、社会とのつながりをもちながら学習活動が行えるよう配慮されている。〔例〕5年上P60「働く人にインタビュー」等
- 児童の興味や発達段階に配慮し、取り組みやすい題材を教材化することで、積極的な活動を促し、伝え合う喜びを味わえるよう工夫されている。
〔例〕1年上P52「いきものあし」、4年下P70「ドリームツリーを作ろう」等
- 他教科の学習への活用、関連づけができるよう、題材が選定されている。
〔例〕4年上P66「手で食べる、はしで食べる」、
6年下P10「「本物の森」で未来を守る」等

2 使用上の便宜

- 各教材が特定の時期に偏ることがないように、単元・教材が配分されている。また、それぞれの学習が、他領域の題材・活動と関連し、発展的に繰り返し学習を進めることができるよう、学習順やバランスなどを考慮して配列されている。
- 児童の発達段階や、時数、教材間の連携等を考慮し、適切な分量・数になるよう構成されている。
- 手書きに近く、はっきりとしたデザインの書体・太さを用いており、文字の指導にも有効に使えるよう配慮されている。
- 各学年の発達段階を考慮した文字の大きさ、行間・行数を設定し、紙面が構成されている。
- 印刷はやわらかい色調ながらも、鮮明で読みやすい。また、カラーユニバーサルデザインの観点から、色調・配色にも配慮されている。用紙は落ち着いて学習ができるよう配慮されたややクリームがかかった色合いのもので、薄いながらも裏写りが無い。
- 児童が持ち運ぶときの負担を考慮して上・下巻の2分冊にし、1冊分の重さが軽くなるよう配慮されている。また、1年間に2回、新しい教科書に出会う喜びを感じることができるとともに、ページ数を減らすことなく、ゆとりをもった丁寧なページ構成が実現されている。
- 第3学年以上の各学年上巻の巻頭には折込ページを設けられており、国語で育てたい資質・能力が一覧で示されている。また、第3学年以上の各学年下巻の巻末には、上巻の折込ページとリンクしたページが設けられており、学んだことを振り返り、他の児童と話し合いながら、「何ができるようになったか」「何が足りないか」を自覚することができるよう工夫されている。
- すべての文学・説明文教材の脚注野には5行ごとの行数字のほか、1行ごとに点（・）で行を示し、特定の行を見つけたり、指示をしやすくしたりする等の工夫がされている。
- カラーユニバーサルデザインの観点から、色の違いだけでなく、形や模様などからも識別できるようにしたり、必要に応じて、文字情報を加えたりして、色だけに頼った活動にならないよう配慮されている。
- 囲み線をつけたり、背景の色を変えたりして、大事なポイントや本文の記述とは異なるものに、すぐに気づけるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	ひろがる言葉 小学国語	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 理解力と表現力を高めるために、教材ごとに重点的に学ぶ事項が設定されている。また、学習過程に見通しと振り返りの過程を位置づけることで、主体的な学びが促されている。さらに、各教材に学び合いの場を設定し、協働して課題解決を図るようにすることで、深い学びを実現できるよう配慮されている。
- 全単元に、その単元の学習目標・学習のめあてや、学習の手立てを明示し、学習の系統化や重点化を図り、育成したい資質・能力をバランスよく育むよう配慮されている。
- 各教材での学習のポイントやそこで扱う学習用語の解説などを「ここが大事」でまとめて解説し、内容の理解と定着を促すよう工夫されている。〔例〕3年下P53「モチモチの木」等
- 各巻のてびきとしての「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」や巻末の「言葉の木」において、語彙拡充のために語句がまとめて示されている。
- 巻末付録「言葉のまとめ」と連携し、情報を扱う文型・話型を提示したり、説明文の読みにおいて、情報を取り出し、情報と情報との関係を捉える活動を設定したりされている。
- 「話すこと・聞くこと」では、日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実生活に結び付いた活動となるよう工夫されている。また、目的意識や必然性・必要感と児童の意欲を重視した教材が設定されている。特に、話し方だけでなく、聴き方を重点化した教材を配置したり、活動後に感想を交流し、自己評価・相互評価する機会を設けたりする等工夫されている。
- 「書くこと」では、目的がはっきりした実用的な文章から、自分の心と向き合う自己を表現する文章までの多様な文章について、表現の全過程を見据え、教材の重点に応じて取り立て指導を位置付けて展開されている。また、児童どうしが感想を述べ合ったり、助言し合ったりして自らの表現内容を見直す視点を示したり、学習後に、感想を交流し、自己評価・相互評価する機会を設けたりする等の工夫がされている。
- 「読むこと」では、文章の特徴を捉え、単元の学習の目的に応じた読みを意識づけ、読みの観点やノートのまとめ方などの学習スキルが系統的に提示されている。てびきでは、言葉による見方・考え方が働くよう系統的に読みの観点を配置し、学習過程を明確にした構成になるよう工夫されている。また、学習者が自らの考えを深化・拡充させられるよう学習活動を設定し、想定される児童の発言例を示し、対話的な学習イメージが提示されている。
- 情報を集めて活用するにあたり、メディアの特徴について考える単元が設けられており、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。
〔例〕4年下P94「調べてわかったことを発表しよう」、
5年下P102「ひみつを調べて発表しよう」
- 各教材の特性を生かすため、単独の教材で単元にししたり、複数教材を組み合わせる領域融合的な単元としたりする等、多様な単元の構成となるよう工夫されている。
- 各巻の冒頭に「〇年生で学ぶこと」、各巻の終わりには「『ここが大事』のまとめ」「学ぶときに使う言葉」というページが設けられている。これらにより、その巻で学ぶ内容を、いつでも確認し振り返ることができるよう工夫されている。
- 学習過程がはっきりとわかるように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、「学習の進め方」が教材の冒頭に明示されている。また、「読むこと」の単元では、学習のステップが提示してあることで、学習の見通しを立てることができるよう工夫されている。

- 家庭での生活経験をもとに、興味・関心のある事柄について家族や友人に知らせたいことを相手や目的に応じた様々な形式の文章で書く場面を設定し、書く喜びを味わうことができるよう工夫されている。
〔例〕 1年上P92「えにっき」、2年下P96「むかしのあそび」
- 身近な人々及び地域の行事について調べ、地域の良さに気づき、愛着をもつことができるよう工夫されている。
〔例〕 3年下P72「町の行事について発表しよう」、
5年上P58「『町じまん』をすいせんしよう」
- 児童の日常生活・経験および興味・関心に対する配慮がなされており、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
〔例〕 1年下P20「『のりものカード』でしらせよう」、3年上P102「よく見て、話し合おう」
6年上P66「地域の防災について話し合おう」
- 多様な観点からの言語活動を通して、学んだことが他教科の学習で活用できるよう配慮されている。
〔例〕 2年下P70「おもちゃのせつめい書を書こう」、4年上P34「ぞうの重さを量る」

2 使用上の便宜

- 6年間を通して系統的な単元構成を意図した内容となっている。
- 複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」がバランスよく組み合わせられている。
- 単元数は、系統の発展を踏まえながら、学年の発達段階や時数に応じた構成にしている。
- 各学年の配当時数、発達段階、教材間の連携をふまえ、無理なく教材が配置されている。
- 読みやすさを配慮した字詰め・行数を採用し、学習の支障となるような過度な色づかいを避け、読みやすく落ち着いたデザインに配慮されている。イラストと文字の空きも十分とり、識別しやすいよう配慮されている。
- 単元・教材ごとに学習過程を踏まえ、それぞれの単元が相互に関わるように並べることで、教科書全体の学習の流れや必然性を大切に展開・構成になっている。
- デジタル機器で表示した際にも、視認しやすい字体が用いられている。
- 児童がもったときの重さに配慮すると同時に、学習意欲の面で1年間に2回、新しい教科書と出会う期待と喜びを大切に考え、上・下巻の分冊となっている。
- 発達段階に応じたイラストを用いることで、児童の共感を得られるように工夫されている。多様な色づかいはカラーユニバーサルデザインにも配慮されている。
- 巻末付録教材は、国語学習に関わるさまざまな指導事項や言語活動を幅広く取り上げている。単元教材や小教材の学習を深め、個に応じた学習や家庭学習や他教科で言語活動を行う際の参考や支援となるよう意図したものとなっている。
- 色調のバランスだけでなく形の上でも区別しやすいよう配慮され、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避け、児童の負担をなくすよう工夫されている。
- 第1学年では、児童が読む際の負担を除くために、単語や文節の途中での改行を避け、意味のまとまりが理解しやすいよう配慮されている。
- 学習の展開、学習の留意点、メモやカード、ノートなどの制作物の例示は、領域を超えて統一デザインとし、学び方が定着できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	国語	38 光 村

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 日常生活に必要な国語の特質について理解し、国語科で身につけた言葉の力を、さまざまな場面で主体的に活用でき、生きて働く知識及び技能として習得できるよう工夫されている。また、日常生活の人との関わりの中で思いや考えを伝え合う力を高め、未知の状況にも対応できる思考力や想像力、判断力を高めていくことができるよう配慮されている。
- 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度が育成できるよう工夫されている。
- 学習のまとめりごとに身につけたい力と言語活動を、単元名・リード文で明示するとともに、活動の過程で必要な知識や必要な用語に、マークを付けたり、コラムを設けたりなどして明確に示されている。また、その学習を通して身につける力や手順、文章の内容を理解するためのポイントを第1学年から各領域にわたり「たいせつ」というコーナーを設定し、付録にまとめられている。〔例〕1年上P111、2年上P56、5年P242等
- 学習に関連した内容や、有効な資料をわかりやすいマークで示し、学習の積み重ねに資するよう配慮されている。〔例〕2年上P81、4年上P29等
- 各学年に言葉そのものを対象化して知識を得たり考えたりする教材を位置づけ、児童が言葉の世界の豊かさを体験するとともに、言葉の自覚的な使い手として育つよう配慮されている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」活動に関する語彙を示して、思考を支える言葉と活動が結びつくよう教材を工夫されている。〔例〕2年上P56、5年P131
- 「情報の扱い方」に特化した教材を設定し、理解や表現をともなった場面で習得・活用できる構成が、第2学年以上に設定されている。
〔例〕3年上P9「考えるときに使おう」等
- 「話すこと・聞くこと」では、対面による口頭表現に特化した「コミュニケーションコラム」を系列化し、各学年に位置づけられている。また、発言例の意味を吹き出し内に示したり、聞き取りメモ例を具体的に示したりするなど、題材の意味が明確に伝わるよう工夫されている。
- 「書くこと」では、児童作例だけでなく、取材メモ、構成メモが掲載されており、児童作例が完成するまでの手順が明確に伝わるように工夫されている。
- 「読むこと」では、つけたい力と言語活動を単元名に掲げて、児童が目的をもって読む学習に臨めるようにし、習得と活用を円滑に行えるよう課題を設定するとともに、身につけた力や考えたことが他教科や日常生活で生かせるよう配慮されている。
- インターネットの検索方法を確かめたり、デジタル機器を使ってプレゼンテーションしたりするなど、情報活用能力の育成に向けた活動が多く取り入れられている。
〔例〕6年P264「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」等
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元の初めに〈学習の進め方〉を示し、見通しをもって主体的に学習の取り組めるよう工夫されている。
- 「読むこと」の「学習」においては、学習活動が見開き構成で示されている。〈見通しをもとう・とらえよう・ふかめよう・まとめよう・ひろげよう・ふりかえろう〉
- 各巻の冒頭に、その学年でつけたい力と教材が領域ごとに一覧できるよう、折り込みで構成された「学習の進め方」と「○学年で学習すること」が設定されている。

- 「ふりかえろう」を設け、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点で振り返ることができるよう工夫されている。
- 家庭での経験をもとにした生活文や手紙文など児童の日常生活に関連の深い題材が、学年に応じて取り上げられている。
〔例〕1年上P96「こんなことがあったよ」 3年上P92「仕事のくふう、見つけたよ」等
- 地域や地域の文化に対する関心を高め、理解を深め、愛着や誇りをもつことができるよう単元や教材が工夫されている。
〔例〕4年下P43「世界にほこる和紙」 5年P72「みんなが過ごしやすい町へ」等
- 児童が自分のこととして考えられる話題・題材が取り上げられ、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。
〔例〕2年下P55「わたしはおねえさん」 6年P132「みんなで楽しく過ごすために」等
- 他教科などと有機的な関連が図れるよう話題・題材の選定が配慮、工夫されている。
〔例〕3年下P51「食べ物のひみつを教えます」、5年P148「統計資料の読み方」

2 使用上の便宜

- 特定の学習内容が、特定の時期に集中して偏ることがないように、教材が単元と小単元に配分され、配置されている。
- 「読むこと」と「書くこと」など、領域を有機的に関連させて構成した学習が効果的に行えるよう、配列が工夫されている。
- 読みやすいだけでなく、書き文字に近い正しい字形を意識させることができ、文字指導に効果的な字体が使用されている。
- 各ページの字詰め、行詰めは児童が読みやすいようにデザインされている。また、書き文字は書写の指導上、美しく正しい字形を用いており、特に低学年の文字指導に配慮されている。
- 国語の特質に関する小単元を上下巻に偏りなく配し、言葉についての知識の整理と練習によって言葉の力が確実に定着するよう配慮されている。
- 印刷は、鮮明で読みやすいように配慮されている。特に、色覚特性に対応するため、配色・色調にも配慮されている（カラーユニバーサルデザイン）。また、環境への負荷に配慮し、重量が軽く、色の裏写りが少ない用紙が使用されている。
- 高学年は、自ら1年間の学びの見通しをもち、既に学んだことを振り返ることができるよう学年1冊構成になっている。
- 各学年巻末には、本単元の学習に資するよう、資料となる教材が掲載されている。資料には選択的な課題を設けたり、並行読書の扱いができたりと、学級・学校の実情や個に応じて補充的にも発展的にも扱える配慮がされている。また、巻末折込教材「言葉の宝箱」として、「考える気持ちを伝える言葉」と「学習に用いる言葉」の一覧が設定されている。
- 読みの能力が十分発達していない児童に配慮し、単語や文節が行をまたぐことを最小限にしている。
- 情報のまとまりを認識しやすいように、用語解説や覚えておきたい知識などは、マークを付けて示されている。また、絵柄の区切りを明確にしたり、写真と写真の間を空けて配慮したり、境界がはっきりと区別できるように線で囲んだり影を付けたりするとともに、色彩特性にも配慮し、図版等については、色による識別に頼ることなく形で識別できるよう作成されている。